GINGA REPORT 401

No.111
2024.8

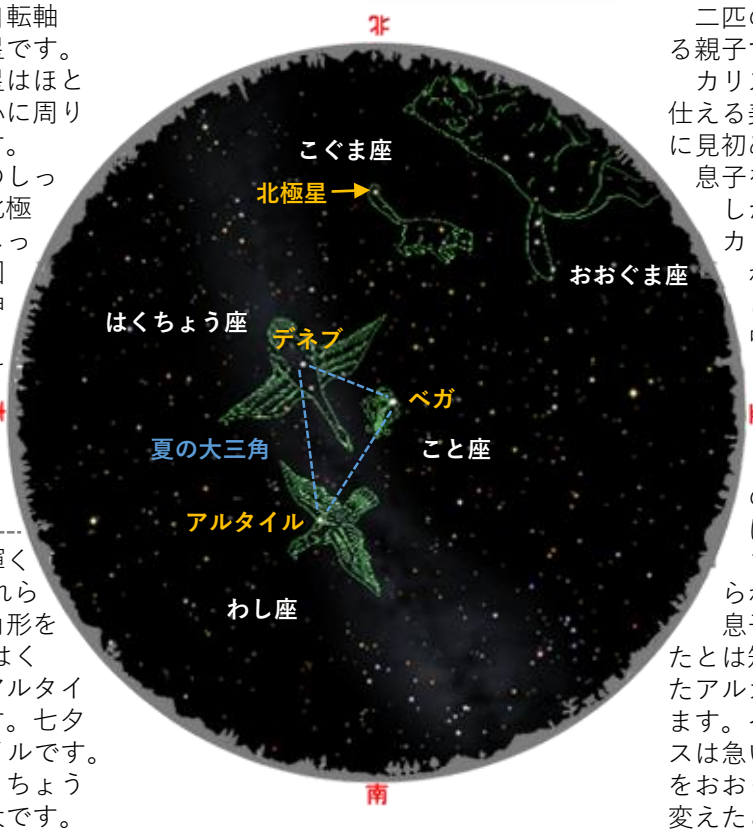
そらんぽ四日市 検索

発行日：令和６年８月１日
編集＆発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

８月の星空

星図：ステラナビゲータ１１/(株)アストロアーツ

8月15日21時の星図



こぐま座のしっぽの先＝北極星

北極星は、たまたま地球の自転軸（地軸）をのばした先にある星です。このため、地球上から見ると星はほとんど動かず、星は北極星を中心に周りを回転しているように見えます。

そして、北極星はこぐま座のしっぽの先端の星でもあります。北極星を画鋲に見立て、こぐまのしっぽの先をとめてぐるぐる振り回したら、ずいぶんとしっぽが伸びてしまったように見えます。しかし、この画鋲はこぐまだけでなく、天のすべてを振り回している強力な画鋲だと考えると、とても興味深いですね。

夏の大三角

夏の夜、頭の真上に明るく輝く３つの１等星が見えます。 これらの星を結んでできる大きな三角形を「夏の大三角」といいます。 はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイル、そして、こと座のベガです。七夕の織姫はベガ。彦星はアルタイルです。二人を橋渡しするように、はくちょうが翼をひろげる姿がとても雄大です。

おおぐま座とこぐま座のお話

二匹のくまはギリシャ神話に登場する親子です。

カリストは、月の女神アルテミスに仕える美しい妖精でした。大神ゼウスに見初められ、アルカスという名前の息子を授かりました。

しかし、ゼウスの妻ヘラは怒り、カリストは呪いで姿を熊に変えられてしまいました。どうすることもできないカリストは、森の中で暮らすこととなりました。

それから時が経ち、息子のアルカスは立派な狩人に成長しました。ある日アルカスが狩のために森へ入ると、一頭の大きな熊に出会いました。熊は凄い勢いでこちらに向かってきます。この熊こそ、姿を変えられたカリストだったのです。

息子に会えた喜びで駆けよって来たとは知らず、襲われると勘違いをしたアルカスは、カリストの心臓を狙います。その様子を天上で見ていたゼウスは急いで二人を空に上げ、カリストをおおぐま座、アルカスをこぐま座に変えたということです。

今月の天文トピック

ペルセウス座流星群極大

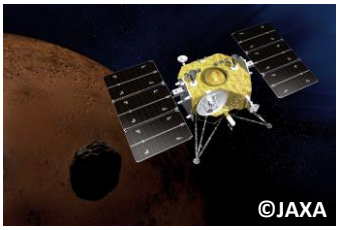
8月の風物詩の1つにもなっているペルセウス座流星群は、お盆のころに活動のピークがあり、観望しやすい流星群です。オレンジ色や緑色などに変化する明るい流星が多く、マイナス4等（一般的な一等星の100倍の明るさ）の火球も出現することがあります。

今年は条件が良く、ピーク時には１時間に100個程度の流星が出現すると考えられています。今年のピークは12日の23時ごろなので、11日の深夜から明け方まで、また、12日の深夜から13日明け方までが、最も多くの流星が観測できると考えられます。

宇宙塾

火星衛星探査計画MMXが探る太陽系の謎

火星衛星探査計画MMXは現在進行中の世界で初めての火星衛星サンプルを持ち帰るミッションです。打ち上げに関する困難や挑戦のほか、火星探査の今後の計画について、お話していただきます。



日時：８月１０日（土）18:20～20:00
場所：５階　プラネタリウム
定員：１４０人　　料金：無料
講師：JAXA国際宇宙探査センター火星衛星探査機プロジェクトチーム准教授
岩田隆浩
その他：中学生以下は保護者同伴

博物館主催 スターウォッチング

【博物館主催流星群観望会】

場所：伊坂ダムサイクルパーク管理事務所付近
◇８月１２日（月・休）２０：００～２２：００
「ペルセウス座流星群観望会」

この日
きらら号は
出動しません

【博物館主催きらら号観望会】

場所：三滝公園
◇８月２４日（土）１９：３０～２１：００「夏の星を見よう」

※申し込み不要、参加無料、天候不良時は中止。
※参加者が多い場合は受付を制限することがあります。
※天候不良等による実施判断は、開始時刻の3時間前に
当館ホームページ及びFacebookで発信します。

編集後記

8月、夏真っ盛りですね。筆者にとって夏の風物詩といえば、花火大会とペルセウス座流星群。

今年、プラネタリウムでは、夏の夜間特別番組「ハナビリウム」を投映しています。本物の花火はもちろんのこと、星空を見上げるように鑑賞できる「ハナビリウム」も一見の価値ありです。ゆったりとした椅子に座って鑑賞できるのもおすすめポイントです。

８月の月

4日		新月
13日		上弦
20日		満月
26日		下弦